

## 施策4 地域の歴史・文化資源の継承

### 基本事業1 文化財の保存と活用

基本事業名	対象	意図	成果指標				進捗度とその理由等	
			項目	単位	R3実績	R4実績		R7目標
4-1 文化財の保存と活用	指定文化財 市民	適切に保存・継承される。 地域の歴史を知り、郷土への愛着を育む。	①国、県、市の指定文化財の 件数	①件	① 87	① 87	① 87	<b>A</b> 国・県・市による指定文化財は、各所有者のもと適切に保存、管理が行われている。 博物館では、地質、考古分野の多角的な研究成果による展示や、展示資料を深く理解するための関連事業を実施することにより、市の自然及び文化の普及と、来館者増に努めた。引き続き、市民の利用促進を図る必要がある。
			②博物館資料登録件数	②件	② 6,385	② 6,389	② 6,400	
			③博物館入館者数	③人	③ 4,635	③ 6,298	③ 8,400	

事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標				進捗度とその理由	今後の方向性等	
				項目	単位	R3実績	R4実績			R7目標
4-1-1 文化財普及活用事業	指定文化財、市民	より多くの人が関心を持つ。	遺跡見学会、考古資料台帳作成、博物館事業(考古資料展示、体験学習会)への協力等  ※ R4 文化財めぐり(関谷洞窟住居跡)、おおふなと遺跡おさんぽガイドの作製・配布、市指定史跡平根一里塚解説板設置	①各種イベント参加者数	①人	① 29	① 16	① 20	<b>A</b> 地図折りの市内遺跡リーフレットを作製したところ、駅や観光施設でも多く利用されている。 また、文化財めぐりのほか、図書展やパネル展を開催し、埋蔵文化財をより身近に感じてもらえるように努めた。 イベント参加者の年齢層に偏りがみられるため、内容や情報発信の手段を工夫する必要がある。	<b>○</b> 埋蔵文化財の普及に向けて、年間を通じて活用を図っているが、埋蔵文化財に対する市民の関心が高まるよう、幅広い年代に多角的なアプローチを行う必要がある。今後も、工夫を凝らしながら継続して事業を実施し、観光振興やまちづくりに有効活用する取組が求められている。 ICTを活用した情報発信の在り方を研究していく。
4-1-2 博物館展示事業	市民、基石海岸を訪れる観光客	気仙地区の自然と文化について学ぶ。	常設展示の公開、館内説明の実施、展示資料及び展示設備の維持管理、常設展示資料の追加・更新・特別陳列の実施、図録の刊行等  ※ R4 市立博物館開館40周年企画展「せきやの洞窟ものがたり」、特別展「シン・大船渡」、特別陳列「大船渡市の縄文土器ほぼ全部」展を開催	博物館入館者数	人	4,635	6,298	8,400	<b>B</b> 市制施行記念行事に関連付けるなど、機会を捉えて企画展示を積極的に開催している。SNS等を活用して情報発信を行い、県内外の専門家の関心を集めている。また、解説会、講演会、体験会などの関連事業を実施し、展示資料の理解促進にも努めている。	<b>●</b> 今後も計画的に調査研究を行い質の高い展示に努めながら、内容や情報発信に工夫を凝らし、市民や観光客、専門家など、より多くの来館者に当市の自然、文化の魅力を発信できるよう努める。

基本事業 2 伝統文化の継承

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標	
4-2 伝統文化の継承	伝統文化継承団体	後継者を育成し、伝統文化を継承する。	①大船渡市郷土芸能協会加盟団体数  ②「郷土芸能や地域の祭などが継承されている」と答えた市民の割合(市民意識調査)	①団体  ②%	① 28  ② 52.5	① 28  ② 53.0	① 30  ② 50.0	<b>A</b> 市民意識調査において、「郷土芸能や地域の祭などが継承されている」と答えた割合は過半数あり、市民が郷土芸能等を身近に感じていることがうかがえる。 民俗芸能については、後継者不足に加え、長引いたコロナ禍のため、練習を中断するなど、活動が停滞した郷土芸能団体が多くあった。伝統文化の継承のため、活動団体の支援の検討を行うとともに、三陸国際芸術祭推進委員会等の関係団体と連携し、その魅力を広く市内外に発信しながら、後継者育成に努める。

事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標		
4-2-1 子ども郷土芸能まつり開催支援事業	大船渡市子ども郷土芸能まつり実行委員会	円滑に事業を運営してもらう。	子ども郷土芸能まつりの開催(隔年開催)  ※R4は、市制施行70周年記念事業として、市郷土芸能活性化事業実行委員会が主催する「黄金けせん！民俗芸能大祭part6」と併催し、4団体が出演した。	市補助金額	千円	—	500	—	<b>B</b> コロナ禍での中止を経て、4年ぶりの開催となった。アンケート調査の結果、来場者、出演者とも満足度が高かった。子どもの郷土芸能団体の出演は4団体となったが、成年層と併催することで、より多くの市民に民俗芸能の魅力を発信することができた。	●統合 まつりは、民俗芸能の後継者育成と披露の場であるとともに、民俗芸能に係る市民の意識啓発のための貴重な機会となっている。民俗芸能の次世代への継承活動を継続するため、効果的なまつりの在り方について、財源も含め関係団体と協議していく。

施策4 総括

施策名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標	
4 地域の歴史・文化資源の継承	市民	郷土の伝統や文化を知り、郷土に誇りと愛着を持つ。	「郷土の伝統文化や文化財を大切にしたい」と答えた市民の割合(市民意識調査)	%	72.6	84.4	80.0	<b>A</b> 市民意識調査で「伝統文化や文化財を大切にしたい」と回答した割合は、8割を超え、目標を達成した。引き続き、市民への情報発信を工夫し、文化財の普及、啓発に努めながら、コロナ禍により大きな影響を受けた民俗芸能の活動促進や、蓄積する埋蔵文化財出土資料の整理などを計画的に行う。 また、市民、地域と一体となり、文化財の総合的な保存、活用を図り、地域資源である文化財の継承に資するため、市文化財保存活用地域計画の策定に向けた取組を進める。
施策の方向性(重点項目、課題等)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保存活用地域計画の策定に向けた現状の把握と課題の抽出</li> <li>・文化財を活用した市の魅力発信や交流人口拡大のための取組の拡充</li> <li>・博物館資料等に係る取蔵施設の確保</li> <li>・民俗芸能の後継者育成と活動支援</li> </ul>								